

おわりに

近年、環境問題が大きくクローズアップされておりますが、本市においては、今から100年以上も前、住友別子銅山が、製錬による煙害問題を企業努力により完全解決するとともに、荒れ果てた別子の山々に年間100万本を超える植林を行い、元の青々とした山に戻した環境対策は、世界に誇る偉業であり、輝かしい本市発展の歴史の中に見られるSDGsの側面であります。

昨年5月、国連が推奨するSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた本市の取組が評価され、国から「SDGs未来都市」に選定されました。

これは、「SDGs推進企業登録制度」や「ユネスコスクールにおけるESDの充実」、さらには「ゼロカーボンシティを目指すための各種環境施策の推進」など、SDGsの達成、持続可能なまちづくりを見据え、近年取り組んできた様々な施策が評価された結果と受け止めています。

引き続き、こうした取組を継続するとともに、市民、団体、企業等の多様なステークホルダーとの連携をさらに強化するため、「新居浜市SDGs推進プラットフォーム」を立ち上げ、より一層、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

また、これまで耐震補強工事や周辺整備工事を実施してまいりました、国の登録有形文化財「旧端出場水力発電所」が、いよいよこの3月末に一般公開できる運びとなりました。別子銅山の近代化を支え、鉱山から派生した諸産業の発展、ひいては新居浜市の発展に大きな役割を果たした「旧端出場水力発電所」を、是非、ご覧いただきたいと思えます。

本年は本市発展の礎である別子銅山が閉山し、50年の節目の年でございます。

ふりかえれば昭和2（1927）年、別子銅山の最高責任者、鷺尾勘解治翁は、鉱量調査の結果、無尽蔵にあると思われていた銅山は20年足らずで鉱脈が枯渇すると発表、「銅山の末期に於いてこれに代わるべき事業を興す」として、地方後策を提唱し、新居浜築港とその埋め立て地に化学・機械・電力などの工場を整備するとともに、都市計画を行い、道路や社宅群を整備するなど、銅山なき後の新居浜の工業化を推進し、本市は「鉱山町」から瀬戸内工業地帯の一翼を担う「工業都市」へ発展を遂げてまいりました。

その精神的よりどころとなったのは、「円融」と「共存共栄」という鷺尾翁の基本理念でございます。円融とは、それぞれがその立場を尊重しながら、理解しあい一体となって考え行動することで、共存共栄は、自他ともに尊重しながら生き、繁栄するという意味でございます。

鷺尾翁が、企業と地方・労働者が共に繁栄することを願い、新居浜の持続的な発展を重んじたおかげで現在の新居浜市があります。

現在、3年に及ぶコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻などにより市民生活や経済活動は様々な影響を受け、大変厳しい状況となっておりますが、「円融」と「共存共栄」の理念を肝に銘じ、ふるさと新居浜の持続的な発展を目指し、第3ステージの公約実現に向け、全力で取り組んでまいり所存でございます。議員の皆様、市民の皆様におかれましては、「チーム新居浜」の一員として、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。